平成２７年度　初任者研修「奥越宿泊研修」において
里山里海湖自然教育を実施しました。

１　日　時：平成２７年８月５日（水）　①10：45～12：20　②13：30～15：05
２　場　所：福井ふるさと学びの森奥越エリア内　自然観察の森
３　参加者：平成２７年度新採用教員等 190 名
（小 63 名、中 51 名、高 39 名、特支 17 名、養教 11 名、栄職１名、その他８名）
４　内　容：

（１）講義「里山の生物多様性を体験しよう」

里山里海湖研究所の多田　雅充生物保全推進員を講師に、生物多様性をテーマとした講義を実施しました。まず、生物多様性という言葉の意味について、ただ単に生きものがたくさんいることを示しているのではなく、「生態の多様性」、「遺伝的多様性」、「種の多様性」の３つの意味が含まれているということを確認しました。その後、「生態の多様性」について、雄島（坂井市）におけるタブノキの群生や、刈込池（大野市）におけるブナ林が写真とともに紹介されました。また、「遺伝的多様性」については、同じナミテントウでも、背中の文様や色が異なるものがいること、「種の多様性」では、夜叉ヶ池（南越前町）にのみ生息するヤシャゲンゴロウや青葉山（高浜町）にのみ生育するオオキンレイカなどが紹介され、保護の必要性も併せて説明がありました。

また、「最近見ましたか？」と問いかけながら、カタツムリ（ツルガマイマイ）やオケラが、減ってきている現状についても説明がありました。

参加した先生方は、初めて聞く内容も多く、うなずいたり、メモを取ったりしながら熱心に聞き入っていました。

（２）フィールドワーク「身近な自然を体験しよう」

ふるさと研究員でもある組頭五十夫さんら自然観察指導員の会の皆さんの指導の下、６つのグループに分かれ、自然観察の森で自然観察を行いました。自然観察指導員の会が事前に設定したポイントごとに、身近な植物等を使って楽しみながら自然を学んでいました。

【クズ】

アメリカではその繁殖力から「モンスタープランツ」と呼ばれるクズの葉を使って、「パン」という乾いた大きな音を出しました。なかなかコツがつかめず、手が痛くなったという先生も・・・。音が出ると、なかなか爽快な気分になれました。

【オオバコ】

先生方にもおなじみの植物を使って、すもう対決。童心に帰って、勝負に夢中になりました。実は、このオオバコずもう。必勝法があるとのことで、負け続けた先生に、こっそり伝授。再度勝負に臨んだ先生、その結果は・・・。なかなかうまくはいかないものですね。

また、オオバコの繁殖力を示す一つの例として、シャーレに集めた種子を観察。実際に指で触ってみると、ねばねばとした感触に、先生方も驚いた様子でした。

【ススキ】

ススキの葉で、手足を切ったという経験のある人も少なくなってきました。ススキの葉には、するどいとげのようなものがびっしり生えていますが、方向さえ間違えなければ切れることはないという話に始まり、秋の七草の１つであることなどの話がありました。ちなみに、この季節、青々としているススキの葉を見て、ススキだとわかる先生は少なかったようです。

また、ススキの葉をロケットのように飛ばして、競争するというネタも仕入れていました。

【キキョウ】

これも秋の七草の１つ、キキョウですが、野生のものは絶滅危惧種となっています。大切に保護されているキキョウの美しい花にしばし見入っていました。また、雌雄同花の植物ですが、雌しべが閉じた状態の雄花期と花粉がなくなってから雌しべの柱頭が開く雌花期があることや、つぼみの形から「バルーンフラワー」と呼ばれていることなどの説明がありました。

【アキノエノコログサ】

ネコジャラシの異名の方が有名かもしれませんが、正式にはアキノエノコログサ。穂先を手で軽く握って、開閉させることで、毛虫が動くように上に出てくる簡単な遊び。意外にも知らなかった先生も多くいました。

【シラカバ】

シラカバの木は皮がはがしやすいことを聞いたのち、その皮の利用法について質問。傷口に貼るというアイディアも出る中、正解は、薪の焚き付け。油分が豊富に含まれているため、実際に少量の皮をめくってライターで火をつけると、大きく燃え上がりました。一様に驚きの声が上がった瞬間でした。

残念ながら、午後の部は突然の雷雨により、途中で切り上げ、青少年自然の家へ避難しました。全身ずぶぬれになりましたが、これもまた自然体験です。